

【No. 1】 商業施設の動線計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 保守メンテナンスやバックヤード動線は、主動線計画と並行して進めることが望ましい
2. 動線計画では、移動距離を長く設定し、入り組むような形状にすることで回遊性を高める
3. 用途や役割が異なる動線は、交錯しないような計画が望ましい
4. 避難動線は、火災時や震災時に機能することが必須となる

答. 2

【No. 2】 商業施設のサイン計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. サイン計画で文字や図を表記する場合、黄色系の多用を避けることが視覚障害者への配慮となる
2. Corporate Identity 計画＝C I 計画とは、企業全体のイメージを統一させ、社会や顧客に対して自社の事業訴求をはかる計画のことである
3. 道路標識・交通信号・消火栓・郵便ポストなどを利用した広告物の設置は、特定の地域や与条件によって認められる場合がある
4. 避難経路誘導サインの設置は、消防法によって定められている

答. 3

【No. 3】 各種商業施設に関する次の記述のうち、建築基準法上、正しいものはどれか。

1. 2階建ての飲食店で、各階の床面積の合計がそれぞれ 30 m²のものは、耐火建築物等としなければならない
2. 飲食店で、2階の居室の床面積の合計が 30 m²のものは、2以上の直通階段を設けなければならない

3. 物品販売業を営む店舗は、その構造及び床面積に関係なく内装制限を受ける
4. 第一種低層住居専用地域内において、2階建て、延べ面積 100 m²の喫茶店兼用住宅(店舗の床面積 20 m²)は、新築することができる

答. 4

【No. 4】 建築構造に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 構造の重要なことは、機能、安全を基本に、人命の保護が第一である
2. 構造の基本設計では、建築、構造、設備の基本事項の整合性はあまり関係しない
3. 建築基準法の主要構造部の木造建築物は、延べ面積 3000 m²以下である
4. ベタ基礎は建物の下部で床板を設け、地盤に建物の重量を伝達する

答. 2

【No. 5】 電気設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 電力の供給において、想定契約電力が 20 kWとなる場合、一般に、高圧受電となる
2. 分電盤は、一般に、保守・点検が容易である
3. 遮断機やヒューズを設ける目的は、回路に事故が発生した場合、直ちに事故回路を電源から切り離し、事故の拡大を防止することである
4. 建築物の受電電圧は、電気事業者から電気の供給を受ける場合、一般に、契約電力により決定される

答. 1

【No. 6】 給水・給湯設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 給水方式には、一般に、水道直結方式によるものと受水槽方式によるものがある
2. 上水道の給水栓からの飲料水には、所定の値以上の残留塩素が含まれていなければならない
3. 給湯設備には局部式給湯設備と中央式給湯設備があり、商業施設のテナント対応としては使用時間が異なることなどから中央式給湯方式が使われる
4. 商業施設では、厨房の冷蔵庫の冷却水やトイレの洗浄水などの雑用水系統と、上水系統とに分ける

答. 3

[No. 7] 空気調和設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 空気熱源ヒートポンプ方式のルームエアコンの暖房能力は、一般に、外気の温度が高くなるほど低下する
2. 中央熱源方式の空気調和設備において、水方式（ファンコイルユニット方式）の場合は、各室に設けられた小型ユニットで空調する
3. 冷凍機の効率は、COP（成績係数）の値により表される
4. 空気方式（単一ダクト方式）は、システムも単純で設備も安い

答. 1

[No. 8] 各種設備装置に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ダムウエーターは荷物専用で、テーブル型と壁取付型がある
2. 通信設備は、建物内における情報伝達や情報を媒体としたコミュニケーションを行う
3. 映像設備は、ディスプレイのデジタル化により、フロア案内や商品のPRなどの表示が行える
4. 排煙設備は、火災時に発生した煙を除去するため設備である

答. 1

【No.9】色彩計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 色彩ガイドラインとは、環境整備や環境美化を目的に、景観緑三法で定められた色区域のことである
2. 暖色系の色は、高揚感を演出する場合に利用されることが多い
3. 企業のロゴタイプや商品パッケージのデザインでは、一般的にコーポレートカラーを用いることはない
4. 演色性とは、発色を左右する光の性質のことである

答. 3

【No.10】大型商業施設に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 日本の百貨店のもととなったのは、ボン・マルシェ（パリ）や、ハロッズ（ロンドン）である
2. 1950年代に大型スーパーマーケットが次々に誕生した
3. 少子高齢化に伴い、過疎化した地域の流通が問題化しつつある
4. 大型ショッピングセンターの出店攻勢は、現在でも留まることはない

答. 4

【No.11】音響計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 残響時間は、室の形状、大きさに比例し、総吸音力に反比例する
2. 壁体における遮音性能は、透過損失（壁体などの遮音の程度を示すもの）の値が大きいほど優れている
3. 室内騒音レベルの許容値は、「一般商店」より「音楽ホール」のほうが高い

4. 店舗内での騒音対策としては、出入口を二重構造にし、防音サッシまたは二重サッシにする

答. 3

【No.12】 環境制度に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. CASBEEとは、建築環境総合性能評価システムのことで、環境配慮はもとより建物の品質を総合的に評価するシステムである
2. 建物のLCAとはライフサイクルアセスメントのことで、環境負荷を評価するものではない
3. サステナビリティとは、持続可能性を意味する言葉である
4. 日本の環境制度は、東京都工場公害止条例（1949年）からはじまった

答. 2

【No.13】 省エネルギー、アメニティに関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 気候変動枠組条約（COP3）は、1997年「京都議定書」に関係している
2. 百貨店の照明と空調エネルギー消費は、合わせて50%になっている
3. アメニティの商業空間における要素は、空間性、光、空気、自然、音などがある
4. 車いす使用者の駐車場の幅は3.5m以上とする

答. 2

【No.14】 商業施設のコスト計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コスト計画では、使用設備の種類、営業時間や従業員のローテーションといった運営手法にも留意する

2. 長期のコスト計画では、初期投資費用の検討がすべてに優先する
3. キャッシュレス決済やインターネット販売を活用することで、コスト削減に結びつけている事業者が増えつつある
4. コスト削減の方法では、天井や床などの同一仕様で数量が多い部位の調整が有効となる

答. 2

【No.15】 設計図書に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 店舗デザイン専用に標準化された製図規格はない
2. 実施設計図は、基本設計に基づいた積算、工事ができる設計図書である
3. 透視図は、施主とのコミュニケーションを密接に図るツールである
4. CADは製図作業や図面作成に時間がかかり、利点が少ない

答. 4